

▼桜の手入れをする児玉さん



飛行艇製造会社のテストパイロットを、兵庫県で8年間されていました。そのとき京都や奈良、大阪の見事な桜を見て回り改めて桜を好きになったそうです。

2年前に住居のある岩国市に戻ってきて、再び錦帯橋の桜に出会ったとき、老木が多いことに気付いたそうです。そんな時、タイミングよく地元のカルチャー

センターで桜の手入れなどを教わる講座があると知り、そこで1年間桜のことを学びました。そして同じ講座の受講生など8人で『錦帯橋さくら守の会』を立ち上げました。毎月1回メンバーが集まり、錦帯橋周辺の桜に肥料をやり、枯れたり病気になるたりした枝を切るなどしています。「会には現在39歳〜80歳まで18人いますが、約3千本あるといわれる桜の手入れをするには、まだまだ人手が足りません。地元の横山地区に住んでいる人をはじめ、外国人などさまざまな人に参加してほしいです」と児玉さん。

最後に児玉さんは「ソメイヨシノの寿命は一般的に約40〜60年と言われていますが、錦帯橋の桜には明治時代に植樹された記録が残っている桜もあり、自分たちが手入れをすることによって寿命を100年以上に延ばしていきたい」と熱く目標を語ってくれました。



▲見事な桜に大勢の花見客が集う



▲徳島県での操縦教官時代

毎年春になると、錦帯橋周辺にはソメイヨシノなど約3千本の桜が咲き誇り、名勝錦帯橋と満開の桜が創り出す景観に、多くの市民や観光客が魅了されています。そんな錦帯橋周辺の桜を守ろうと、今年3月『錦帯橋さくら守の会』が発足しました。そこで会長を務めているのが児玉さんです。

児玉さんは、宮崎県の高校を卒業し

その後、海上自衛隊に入隊し、日本各地を任務で転勤する中、海上自衛隊岩国基地に配属になり、岩国で結婚し住居を構えられました。このとき錦帯橋の桜を見る機会があり、その美しさに感動されたそうです。その後も日本各地を転勤しましたが、自衛官を退官し、自衛官時代に務めていた救難飛行艇US-1のパイロットの経験を生かし、



樹齢100年以上を

目指して

Vol.56

児玉 廣志さん
(平田在住)

元海上自衛官。今年3月に「錦帯橋さくら守の会」を設立し、会のメンバーと月1回、錦帯橋周辺の桜の手入れに尽力している。会では現在、会員募集中。

